

令和7年度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書
(令和6年度事務事業)

令和8年1月

増毛町教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見も活用しながら、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっております。

このことから、増毛町教育委員会では、「増毛町教育事務執行の点検及び評価等に関する規程」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすため、「教育に関する点検及び評価」を実施し、報告書をまとめました。

増毛町教育委員会としては、点検・評価の実施を通じて施策の効果的な検証と積極的な改善を図りながら、教育行政施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、皆さんの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和6年度 教育委員会事務事業の点検及び評価

【学校教育】

本町においては、小学校1校（児童118名）、中学校1校（生徒73名）、認定こども園（園児66名）の体制で、各校、こども園において在籍する児童生徒、並びに、幼児一人ひとりの個性と能力を伸ばし、心豊かで自主・自律の精神を身に付け、地域社会の形成者として必要とされる資質を養うことを目的として学校教育の推進を図っています。

（1）教育の充実

社会が目まぐるしく変化していく時代、子どもたちが将来自立した人間として生きていくためには、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付け、それらを活用できる学力を育むことが重要であります。

そのため各学校では、学習指導要領に基づき、意欲的に学習し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを身に付けることができるよう努めます。

また、教員は教育への情熱や指導力などの資質の向上が不可欠であり、広い視野、視点から自己研鑽を促し、指導力を高める校内、校外研修の充実を図ります。

学校（園）生活では安心して安全な教育・保育環境を保つため、感染症防止対策の徹底を図っています。

（主要事業）

事務事業名	事業内容及び点検・評価
教育支援員の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動支援員 児童生徒のいじめ・不登校及び学校諸問題への対策として、支援の充実を図った。 中学校1名 学校の諸問題について指導助言、支援を行い、教育活動の充実が図られた。 ・学習支援員 児童生徒の学習効果を高めるための学習支援や、学校生活へのより良い適応を図るための支援の充実を図った。 小学校2名、中学校1名 学習支援を行うことにより学習効果が高まり、学校生活への適応が図られた。 ・特別支援教育支援員 特別な支援を必要とする児童生徒個々に対応した適切な教育支援体制の充実を図った。 特別支援学級数 小学校 4学級（児童 8名） 中学校 2学級（生徒 3名） 計6学級（児童生徒11名）

	<p>特別支援教育支援員を小学校に2名と介助員1名を配置し、支援指導体制の充実が図られた。</p>
スクールソーシャルワーカーの配置	<p>不登校傾向の児童生徒が増加している状況であり、その原因とおもわれるものが、本人の精神面や家庭状況などであるため、教員だけでは対応が出来なくなることから、精神保健福祉士であるスクールソーシャルワーカーを月2回、小・中学校に配置し、児童生徒だけでなく保護者との相談や指導を行った。</p> <p>(令和3年度より)</p>
少人数指導教育の推進	<p>指導方法工夫改善事業の教員加配により、ティーム・ティーチングや少人数による習熟度別学習指導を行い、効果的な教科指導が図られた。</p> <p>実施校 中学校(指導方法工夫改善加配1名) 小学校(指導方法工夫改善国語専科加配1名)</p> <p>指導教科 中学校(国語、数学、英語) 小学校(国語、3年生以上)</p> <p>基本的な学習の定着を目指して実施しているが、今後も継続して実施が必要と考えている。</p> <p>なお、次年度以降も小中両校において加配の配置を道教委へ要望することとしたい。</p>
外国語教育の充実	<p>小学校3、4年生の外国語活動と、5、6年生の外国語科の授業において、これら英語教育の充実を図るため外国語指導助手を配置し、各小中学校、認定こども園への巡回指導のほか、社会教育分野での事業展開を行っている。巡回指導では、英語担当教員と連携した指導を行うことで、授業の充実が図られた。</p>
学校図書活動の充実	<p>計画的な図書購入により学校図書の充実を図った。</p> <p>図書購入費 小学校304千円 中学校155千円</p> <p>各学校で朝読書等の図書活動を行っているが、読書が生活の一部として習慣づけが、まだまだ不十分であり、今後も学校図書を充実し、図書活動を進めて行きたい。</p>
要保護準要保護就学援助事業	<p>生活保護受給世帯及び生活保護に準じた援助が必要な世帯の児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費などの就学援助を行い、保護者の経済力による教育格差の是正を図った。</p> <p>小学校 15名 10世帯 708千円 中学校 6名 6世帯 415千円</p>
健康診査の実施	<p>学校保健安全法に定められた児童生徒の健康診断(内科、歯科、心電図)を実施した。</p> <p>また、教職員の健康診断を実施し健康維持管理を図った。</p> <p>今後も法律の規定に基づき、児童生徒の健康診断を実施するとともに、教職員の健康診断・メンタルヘルスチェックについても、学</p>

	<p>校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するため実施する。</p> <p>教職員健康診断・メンタルヘルスチェックの実施については、町職員の検診実施機関に依頼し経費の軽減と事務の効率化が図られた。</p>
給食事業	<p>各学校において、栄養バランスを考え、美味しい自校給食を行った。更に、地元食材を使用した「まるごと増毛 DAY」の日を設け、食をとおして郷土への理解が深まった。</p> <p>また、栄養教諭が各学校を巡回し、食育指導の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食設備維持費、人件費等の公費負担経費 <p>小学校費 11, 143千円</p> <p>中学校費 8, 760千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭巡回 <p>献立打ち合わせ 月1回（各校）</p> <p>食育授業 各学期に1回（学校要請による）</p> <p>適切な衛生管理・栄養管理のもと、学校給食の運営を行うことができた。</p>
防災指導	<p>災害等の発生時に冷静・敏速・安全に行動ができるよう、各学校において避難訓練を実施することにより、児童生徒及び幼児の防災意識を高めることができた。</p> <p>小学校 火災 6月12日、地震津波 9月5日</p> <p>中学校 地震津波 9月2日</p> <p>こども園 地震津波 6月20日、9月2日</p> <p>火災 5月17日、2月13日</p> <p>※9月1日の増毛町避難訓練は日曜日のため、各施設において実施。</p>
教育振興会事業	<p>町教育振興会が主催となり、児童生徒の学習意欲を高め、学習成果を上げるため、教育機器の活用及び学習方法の研究や児童生徒の問題について実践研究を行い、教職員の職能向上と教育内容の充実に努めた。また、小中の連携を一層進め、児童生徒指導及び学習指導の充実に努め、学習成果をとおして学校間の親睦と交流を深めるため各事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画書道展 元陣屋・オーベルジュましけ ・研究体制 研究班7班 <ul style="list-style-type: none"> ◦「家庭学習の手引き」の作成、一斉研修、授業公開 ・学力向上事業 <p>中学生の英語力の向上、及び学力の到達度を把握するための模試に対する受験料（1回分）、また、小中学校の漢字検定の受験希望者に対する受験料の助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦英語検定 受験生徒 のべ44名（2回実施） ◦北海道学力コンクール 受験生徒 19名（1回実施）

	<p>○漢字検定 受験児童生徒 52名（2回実施）</p> <p>各事業を通じ、地域的連帯感を育み、児童生徒の学習意欲の向上が図られた。</p>
ICT 教育の充実	<p>GIGA スクール構想のため令和2年度において「児童生徒一人に1台」のタブレット型 PC を整備し、学校授業に活用するための学習支援ソフト「e ライブラリ」を令和3年度から導入している。</p> <p>また、GIGA スクール構想第2期に向け、校内のネットワーク強度にかかる調査を行った。</p> <p>学習支援ソフトライセンス料 575千円（1年更新） ネットワークアセスメント 1,430千円</p>
教材備品の整備	<p>児童生徒の教科指導に必要な学習教材備品の購入・更新を行い、教育環境の充実を図った。</p> <p>小学校 教材備品の購入 259千円 中学校 教材備品の購入 493千円</p>
教材費の助成 （保護者負担の軽減）	<p>児童生徒の教科指導に必要な一般教科費の助成を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>小学校 消耗教材費助成 472千円 児童1人あたり4,000円 道徳・総合的学習消耗教材費 52千円</p> <p>中学校 消耗教材費助成 300千円 生徒1人あたり4,000円 道徳・総合的学習消耗教材費50千円</p>
学校給食費の一部負担 （保護者負担の軽減）	<p>平成29年度から学校給食費の一部（令和6年度より保護者負担の7割）を助成することで、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>助成金額 小学校 4,827千円 中学校 3,324千円</p>
児童生徒の傷害保険掛け金の全額負担 （保護者負担の軽減）	<p>学校やこども園生活における児童生徒、幼児の負傷等に対応するため、日本スポーツ振興センターの災害共済に町費で加入し、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>加入金額 こども園 21千円、小学校 111千円、 中学校 69千円</p>
スキー授業への援助 （保護者負担の軽減）	<p>冬期間の体育授業（スキー学習）におけるリフト使用料の全額援助を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>援助額 小学校 353千円 中学校 204千円</p>
中体連参加費の助成 （保護者負担の軽減）	<p>管内大会及び全道・全国大会参加費用の助成を行い、保護者の負担軽減と部活動の推進を図った。</p> <p>管内大会 全額助成 192千円 全道大会 サッカー、剣道、卓球 参加料・交通費全額助成、宿泊費一部助成</p>

	助成額 610千円
中学校武道必修化に伴う柔道着の整備 (保護者負担の軽減)	<p>中学校体育授業において必修となっている柔道に使用する柔道着は、1年生に対して町費により購入し、保護者の負担軽減を図っている。柔道着の整備については、平成24年度より継続して実施している。</p> <p>購入費 255千円</p>
小学校新入学児童へのランドセルの寄贈 (保護者負担の軽減)	<p>令和7年度の新入学児童へ、小学校の1日入学時にランドセル(ナップランド)の贈呈を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>小学校新1年生 児童数分 15名 134千円</p> <p>平成6年から行われているこの事業は、保護者にも定着しており事業継続が望まれる。</p>
中学校新入学生徒へのカバン、ジャージの寄贈 (保護者負担の軽減)	<p>令和7年度新入学生徒へ、入学祝い品としてカバン・ジャージの贈呈を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>中学校新1年生 生徒数 28名 836千円</p> <p>平成26年から行われているこの事業は、保護者にも喜ばれており、事業の継続が望まれる。</p>
スクールバスの運行	<p>遠距離通学児童生徒の登下校のためにスクールバスを運行のほか、各種校外活動等においてもスクールバス運行を行った。</p> <p>安定したバス運行により乗車する児童生徒の登下校の安全確保が図られた。</p> <p>また、長期休業中の部活動においてもバスを運行し、保護者負担の軽減と教育活動の充実が図られた。</p> <p>また令和5年には、車内置き去り防止安全装置を設置し、送迎バスにおける通園・通学等の安全を確保した。</p>
学校運営協議会の設置及び開催	<p>各校に保護者や地域の代表の方々と構成される合議機関である「学校運営協議会」が令和3年度に設置され、各学校において協議会が開催され、学校運営の改善や児童生徒の健全育成の取組が実施された。</p>
増毛町教育振興会への助成	<p>児童生徒の指導研究を行う「増毛町教育振興会」への助成を行い、教職員の指導力向上、教育環境の支援と充実を図った。</p> <p>増毛町教育振興会 315千円</p>
幼児教育・保育の充実	<p>「幼保連携型認定こども園あつぷる」は、入園児一人ひとりを大切にし、特性に応じて心身ともに健康で明るく生活できるようまた、就学前の教育の充実に努めた。</p> <p>また、保護者負担軽減策として、保育料の完全無償化を実施した。</p> <p>教職員数 園長1名 保育教諭20名 公務補1名 栄養士1名 調理員3名 計26名</p> <p>就園児数 0歳児 0名 1歳児8名 2歳児5名 3歳児17名 4歳児22名</p>

	<p>5歳児14名 計66名</p> <p>さらに各家庭との連携を図り、保護者の幼児期の保育・教育に関する理解を深めてもらい、保護者がこども園と共に幼児を育てるという意識を高めることができた。</p>
小中学校における働き方改革促進事業	<p>令和5年度より校務支援システムを導入し、教職員の業務の軽減を図り、子どもと向き合う時間の増加ときめ細やかな指導が可能となることで、学校経営の改善と教育の質の向上につなげた。</p> <p>校務支援システム運用 901千円</p>
高等学校生徒への通学費の助成	<p>地元には高校がないため、留萌市内の高校へ通学する生徒の保護者に対し通学費の助成を行い、対象家庭に対し教育費負担の軽減を図った。</p> <p>助成生徒数 46名 助成総額 3,602千円</p>
放課後児童健全育成事業	<p>保護者が労働等により、昼間家庭にいない小学1年生から3年生に対し、授業終了後に「学童保育」として放課後の預かりを文化センターで実施した。</p> <p>預かり希望申請者：22名</p>
多子世帯子育て支援金支給事業	<p>多子世帯の負担を軽減するため、第2・3子以降の子どもが、小学校、中学校、高等学校等へ入学・進学する保護者に対し、申請に基づき「子育て支援金」として商品券を支給した。</p> <p>なお、従前は第3子以降を支給対象としていたが、令和5年度より第2子から支給対象としている。</p> <p>第2子 19件、第3子 9件 助成総額1,020千円</p>

（2）学校施設等の環境整備

児童生徒が、安全・安心でより快適な学校生活を送れるように、学校施設の補修・改修を行います。

また、老朽化している町内の教職員住宅の補修、設備備品の更新を行い、教職員の生活環境の改善を図ります。

（主要事業）

事務事業名	事業内容及び点検・評価
各学校の維持管理補修	<p>学校運営に欠かせない校舎・設備等の修繕を行った。</p> <p>こども園 計 531千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天井物干し、ボイラー修繕ほか <p>小学校 計 2,568千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気錠、ボイラー修繕ほか <p>中学校 計 2,890千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気錠、床張替え修繕ほか

小中学校の熱中症対策	<p>小中学校における熱中症対策として、普通教室他にエアコンを設置した。(※R5 年度補正予算、R6 年度設置。)</p> <p>増毛小 普通教室(12)、特別支援教室(5)、 校長室、職員室 計19台 16,577千円</p> <p>増毛中 普通教室(6)、特別支援教室(3)、学習室(6)、 校長室、職員室 計17台 16,236千円</p>
教職員住宅の環境整備	<p>教職員住宅の改修・設備備品等の更新を行った。</p> <p>教職員住宅修繕費 318千円 設備備品等修理費 765千円</p>

【社会教育】

令和4年度から、第九次増毛町社会教育中期計画に沿って単年度ごとの増毛町社会教育推進計画を作成し、社会教育を推進しております。

増毛町の社会教育の目標は、「増毛町民の誓い」を基本とした実践活動をとおり、町の町づくりプラン基本テーマ「だれもが住みたい・住み続けたい ふるさと増毛を目指して」の具現化を目指し、地域に親しみ、人と人との確かなつながりによって、町民相互の交流が深まるような教育活動の推進を図っております。

各事務事業の実践においては、常にPDCAを繰り返しながら町民の皆様の学習意欲に応えるべく取り組んでおります。

また、町民への社会教育の事務事業の周知活動として、社会教育事業の広報紙「社会教育だより」を毎月発行しております。

(1) 学習や社会参加への意欲を高める生涯学習活動の推進

町民の皆さんが生涯にわたり生きがいとゆとりを求め、自らの資質向上のための学習活動を支援できるように情報を提供するとともに、各施設を有効利用しながら生涯学習活動の推進に努めております。

また、人口減少などにより、一人ひとりの行動や考える力の重要性が顕著となっておりますので、家庭教育情報誌「親子の時間」の定期的な配付により「家庭・地域・学校」での連携した家庭の教育力の向上に重点をおいて取り組んでおります。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
暑寒大学・こども園交流会 [幼児・高齢者]	<p>11月8日、町立体育館で認定こども園あつぷると暑寒大学との世代間交流を目的として開催した。</p> <p>核家族化が進行する中、高齢者と一緒に活動することは、幼児世代にとってはいたわり合う心の育成が図られる大変貴重な体験であり、今後も継続する必要がある。</p>
家庭教育の推進 [幼児・少年・成人]	<p>家庭教育に関する情報紙「親子の時間」を毎月広報の発行日に全戸に折込み、家庭教育の重要性を醸成している。</p> <p>月1回、全12回発行</p>
ましけキッズ体験隊 [少年]	<p>小学生全学年を対象とした事業として、低学年・中学年・高学年の3クラスに分けてそれぞれ事業を実施した。</p>

	<p>クラスごとに活動目標を定め、年間の体験活動を通じて少年の育成を推進した。</p> <p>事業内容は、低学年はパークゴルフ体験・リンゴ狩り・日帰り研修など、中学年はアクセサリ制作・モルック体験・日帰り研修など、高学年は茶道体験・宿泊研修などの事業を行った。</p> <p>参加者は、低学年12名と保護者、中学年24名、高学年26名。参加者からは貴重な体験や経験を積むことができると好評な事業のため、今後も継続する必要がある。</p>
ごだらっぺ王国祭 [少年]	<p>令和2年度からコロナ禍を受けて休止していたが、9月23日文化センター及び体育館で開催。小学5、6年生の実行委員が企画し、子ども会育成員・教育委員会職員やライオンズクラブ・保護司会等とともにゲーム・出店の運営を行い、町内の幼児・小学生・保護者等148名の参加があった。実施主体の子育連がコロナ渦中に解散し、子ども活動会議がその後を受けて開催する2回目の開催となった。</p>
英会話教室 [成年]	<p>A L T（外国語指導助手）を講師とし、英語に触れて楽しむことを目的とした教室を開催した。11月から翌年2月まで毎週木曜日の計画で11名の申し込みがあったが、期間中にA L Tが退職するなどの事情があり、規模を縮小し全5回の開催となった。</p>
青年（成人）講座	<p>町内の仲間づくりや交流の場として毎年各種の講座を計画しており、近年は社会教育委員と共同で取り組んでいる。今年度は3月に「お寿司の握り方講座」を開催し、18名の参加があった。</p>
さくらコミュニティ 学級 [女性]	<p>町内の70歳までの女性を対象に、毎月第2火曜日に学習会や実技講習などを年12回開催し、町内施設巡り・着付け教室・日帰り研修等を行った。今後も豊かな人間性を培うとともに生活の向上に努めたい。学級生数は21名。</p>
暑寒大学 [高齢者]	<p>町内の65歳以上の方を対象に、学習会・講演会・施設見学など毎月第2、第4金曜日に年23回の行事を計画した。</p> <p>趣味・レクリエーション・健康講座など、高齢者が団体活動の楽しさを感じられる事業を中心に実施している。</p> <p>学生数は51名。</p>

（2）地域文化の創造を目指す芸術文化活動の推進

住民の感性を育み、心豊かに暮らすためには、地域における芸術・文化活動の実施が大きな役割を担っています。

活動の拠点として、文化センター、総合交流促進施設元陣屋及び創作の館が、より身近に親しむことができるよう、文化協会をはじめとする関係団体と連携を図りながら芸術文化活動を推進しております。

また、重要文化財「旧商家丸一本間家」や、北海道指定有形文化財の「厳島神社」については、増毛町の重要な観光施設としての側面も考慮し、増毛町の歴史を内外へ発信しながら、保存・活用に努めております。

（主要事業）

事務事業名	事業内容 及び 点検・評価
増毛町文化祭	<ul style="list-style-type: none"> 作品展示（出品4団体4個人） 10月26日～11月4日、元陣屋で開催した。 舞台発表（出演6団体）

	<p>10月20日、文化センターで開催した。</p> <p>文化協会と共催し、文化活動の奨励と発表・交流の場をつくり、展示、舞台部門をそれぞれ開催した。新たに参加する団体も出てきているが、高齢化で休会・退会する団体が増えている。</p>
芸術鑑賞会	<p>日常鑑賞することの少ない舞台芸術を上演することで、芸術文化に対する啓発を図った。</p> <p>今年度は小学校でパントマイム演者による「ケッチのフィジカル・コメディ舞台」を公演した。舞台芸術は音楽・演劇・伝統芸能などジャンルが広く、年ごとに学校のニーズを把握しながら実施する必要がある。</p>
全町書き初め大会	<p>文化協会との共催で実施している。令和6年度は38名の参加があった。伝統文化の継承や豊かな情操の育成を目的に継続している。</p>
重要文化財 旧商家丸一本間家の 公開	<p>一般公開期間：4月25日～11月3日 入館者は4,457名（前年度比114名増） 入館者の増加につなげるため、一般公開中に各種事業を実施した。</p> <p>本間家でコスプレデー：26名 本間家ミニ縁日：3,386名 茶菓サービスの日：69名</p> <p>観光施設としての側面もあり、次年度も、重要文化財に更に親しんで頂くようイベント等の企画に取り組みたい。</p>
史跡巡りツアー	<p>令和4年度から始まった事業。バスに乗り込んで町内の史跡や石碑等10か所を巡り、増毛町の歴史について知識を深めることを目的としている。R6年度は17名の申し込みがあった。</p>
ましけ町民スクールへの 助成	<p>ましけ町民スクール運営委員会へ1,000千円の助成を行った。同団体との共催により、4回の講座を開催した。</p> <p>第1回 6月20日 テーマ：講話（参加者102名） レギュラー（お笑い） 「レギュラーの知っておきたい介護の話！」</p> <p>第2回 7月11日 テーマ：民謡（参加者148名） 日本民謡佐藤会 「三船殉難の追悼と民謡の夕べ」</p> <p>第3回 9月27日 テーマ：講話（参加者 88名） 菊地 幸夫 「菊地流 魅力的な人生のススメ」</p> <p>第4回 10月22日 テーマ：健康（参加者137名） 札幌医科大准教授 「効く運動、効かない運動」</p> <p>「住民による住民のための開かれた学習の場」として開催されている講座だが、近年は娯楽性の強い講座や健康に関する講座も盛り込み、総合的な文化事業として町民に浸透している。</p>
増毛の民話伝承会の育 成・公演	<p>「増毛の民話伝承会」が、全13話ある影絵紙芝居を活用した民話を観光客や地元団体等の要請により、公演として行っている。</p> <p>公演回数：2回</p>

（３）健康で活力ある生活を目指すスポーツ活動の推進

高齢化により、スポーツ協会の会員数の減少など町内のスポーツを取り巻く環境は厳しい状況に向っておりますが、スポーツ活動は、身体を動かすという人間の根源の欲求に応えるとともに、精神的充足や楽しさをもたらすものであり、心身ともに健康で豊かな生活を送れるよう、生き生きとしたスポーツ活動の実現に向け、スポーツ推進委員及び各種関係団体と連携を図り、現状に見合うスポーツ活動の推進に努めております。

（主要事業）

事務事業名	事業内容 及び 点検・評価
スポーツ団体への支援援助	<p>①スポーツ協会への助成 加盟９団体、会員数２００名、４７７千円の助成を行った。スポーツ関係団体が、高齢化や会員の減少傾向にあることから、継続して事務局を担い団体の育成・強化に努めた。</p> <p>②スポーツ少年団本部 加盟４団体、会員数７６名、２３６千円の助成を行った。また、事務局を担い、各少年団の連携を図っている。</p>
第１４回健康づくりウォークラリー	<p>新たな健康づくり事業として開催し１４年目を迎え、７１名が参加した。</p> <p>町内の約５ｋｍのコースをオリエンテーリングし、チェックポイントごとにゲームなどに挑戦しながらゴールをめざした。今年度は暑寒沢を中心としたコースとした。事業が町民に浸透し、安定した参加者数があり好評のため、今後も継続して実施する必要がある。</p>
ましけラン２０２４	<p>１０月６日、リバーサイドパークをスタート・ゴールとして実施した。１．８ｋｍ、３．２ｋｍ、５．０ｋｍコースに１０１名が出場した。令和２年以降は感染症対策のため、１０秒おきに４人ずつでスタートするウェーブスタート方式を採用している。</p> <p>今年度はコースを再び古茶内に移しての開催となった。</p>
水中運動講習会	<p>町民の健康推進とプールの利用促進を目的に平成２年から実施している。令和６年度は７月３１日～９月１８日にかけて３回開催し、１０名の申込みがあった。</p>
体力測定会	<p>自分の体力年齢を知ってもらい、スポーツを継続的に生活に取り入れるきっかけを作るために実施している。令和６年度は１３名の参加があった。</p>
子ども水泳教室	<p>子どもの体力増進とプールの利用促進を目的に平成４年から実施している。令和６年度は７月２６日～８月１６日にかけて３回開催し、１０名の申込みがあった。</p>
スポーツ交流大会 （委託事業・補助事業）	<p>①増毛リトルカップサッカー大会（主催：サッカー連盟） 男子小学４年生以下及び女子小学生を対象とした全道でも歴史ある大会。８月１０日～１１日開催、全道各地から選手４６２名が参加して行われた。</p> <p>②暑寒別岳ジャイアントスラローム大会（主催：増毛スキー連盟） 幼児から一般までを対象とした公式大会となっており、３月９日に開催、全道から１７７名が出場した。</p> <p>各種スポーツ交流大会については、町外からの参加者にとっても好評な事業となっており、増毛町への交流人口の拡大に向けても期待できるため、今後も継続して実施する必要がある。</p>

(4) 社会教育施設の活用推進

住民の多様なニーズにあった学習や交流の場ができるよう、文化センター、総合交流促進施設「元陣屋」及び創作の館の運営充実に努めております。

また、スポーツ活動の推進を図るため、体育館、屋内グラウンド、温水プール及び学校体育館の開放充実に努めております。

(主要事業)

事務事業名	事業内容 及び 点検・評価
文化センター	文化サークルや地域住民の集会施設としての利用も多く、文化活動や地域づくりの拠点施設として管理運営に努めた。 開館日数357日 利用人数22,681名（前年度比372名減）
総合交流促進施設「元陣屋」	開館日数304日 入館者7,479名（前年度比512名増） [図書室の利用] 利用人数 4,537名（前年度比39名増） 貸出冊数 7,640冊（前年度比1,123冊減） [展示室の利用者数] 1,307名（前年度比186名増） [各室の利用者数] 1,640名（前年度比292名増） ※町の読書を普及させる拠点としての役割を強化するため、下記の事業を実施し、読書活動の活性化を図っている。 ・「おはなしポトフ・プチ」 乳幼児検診時に幼児と保護者を対象とした図書の奨励事業。 全6回 参加者数延べ116名 ・「元陣屋シアター」 元陣屋所蔵の映像ソフト鑑賞事業 全2回 参加者数延べ27名 ・「移動図書館事業」各施設月1回程度 小学校・学童保育・明和園での絵本の読み聞かせや本の貸し出し こども園での読み聞かせ ・「絵本まつり」 4月23日～5月8日 参加者数延べ1295名 ・「元陣屋まつり」 12月15日 参加者数89名 ・「ハロウィンでトリック・オア・トリート！」 10月26日 参加者数122名 ・元陣屋特別展 「加納和美回顧展」 8月2日～8月25日 来場者数676名 平成30年度から社会教育だより等を活用した情報提供や館内でのBGMを導入し、利用しやすい環境づくりを進めている。次年度以降も工夫をこらし、読書への関心を高める事業を実施していく必要がある。
創作の館	通常は陶芸サークルが利用している。 設備自体は整っており、技術の向上とコミュニティ醸成の場として活用されている。 利用者210名（前年度比18名減）

町立体育館	<p>町民のスポーツ・レク活動の拠点とし、施設の充実と利便性に努め健康増進とスポーツの普及に努めた。</p> <p>施設の老朽化が進んでおり、長期的な整備計画が必要な状況となっている。定期利用団体数は5団体となっている。</p> <p>子ども達の体力向上と施設の利用促進のため、令和2年度から中学生以下の利用料金を無料にしている。</p> <p>団体利用人数 4,794名（前年度比 735名増） 個人利用人数 1,497名（前年度比 445名増） 合計利用人数 6,291名（前年度比 1,180名増）</p>
屋内グラウンド	<p>定期利用団体数は5団体で、町民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として施設の有効利用に努めた。特に冬期間のスポーツ振興に大きな役割を担っている。</p> <p>子ども達の体力向上と施設の利用促進のため、令和2年度から中学生以下の利用料金を無料にしている。</p> <p>団体利用人数 5,852名（前年度比 132名減） 個人利用人数 520名（前年度比 73名増） 合計利用人数 6,372名（前年度比 59名減）</p>
温水プール	<p>町民の健康維持と体力向上が図られる施設として管理運営に努めた。令和2年度に水槽及びプールサイドの修繕を行い、施設の整備を図った。従前から小中学校のプール授業では施設を無料開放している他、令和2年度から子ども達の体力向上と施設の利用促進のため、中学生以下の利用料金を半額にしている。</p> <p>近年は水中運動講習会や子ども水泳教室などを実施するほか、浮き輪であそべる遊泳エリアを設けるなど、利用者増へ向けての取り組みを進めている。</p> <p>団体利用人数 616名（前年度比258名増） 個人利用人数 1,595名（前年度比386名減） 合計利用人数 2,211名（前年度比128名減）</p>
学校体育館の開放	<p>中学校体育館を10名以上の団体・グループに開放し、町民の健康と体力の向上並びにスポーツ人口に対する効果的な学校施設の利用促進に努めた。</p> <p>開放時間 週2回18時45分～20時45分まで 利用団体 2団体（ミニバレーチームさくら） （舎熊スポーツサークル）</p>

【学校教育】

コロナ禍を経て3年、ようやく本来の落ち着いた社会状況がもたらされ、学校教育に計画的かつより効果的な教育活動を進められる環境が整ってきました。

このような中でも社会情勢の変化は大きく激しく動き、日々それらへの対応に追われるのが現在の学校教育現場の実態ではないかと察せられます。学校教職員はじめ増毛町教育委員会の職員は、様々な学校課題に向き合いながら、増毛町児童生徒の未来のために、努力をされていることに敬意を表したいと思います。

- 学校教育活動支援員
生徒指導上の個別指導に効果的な配置と思う。
- 学習支援員
個々の学習指導に対して効果の或る配置と思われる。特に個別指導を行うことによって学力の格差解消が図られると思う。
- 特別支援教育支援員
特別支援が必要な児童生徒は、発達段階や特性によりニーズが異なるため、複数で対応することによってきめ細やかな指導育成が可能となる。
- スクールソーシャルワーカーの配置
不登校のみならず、精神的負担を感じている児童生徒の個々の状況に応じて専門性を生かして相談対応できる。教員が気付かない点も補うことができると思われる。
- 外国語教育の充実
国際化の世界的な流れの中で、広く視野を世界に向ける基礎となる言語を身に付けることが将来必ず役立つと思う。外国語教育は、単に言葉を理解するだけでなく、外国語と合わせてそれぞれの国の生活を知る上で大切である。外国語教育の一層の充実には、外国語指導助手を効果的に活用することが望まれる。
- 要保護準要保護就学援助事業
家庭環境によって、児童生徒の教育条件に格差があってはならない。物価高騰のおり、一層の支援が望まれる。特に、社会の実態を反映した支援になっているか評価して継続を望む。
- 教育振興会事業
学校教育の現場は非常に時間に追われる実態がある。このような中で行われるので、事業内容の評価や工夫によって、より貴重な研修、研究の時間となることを望む。
学校教育と関連付けた各種検定の奨励は、広く児童生徒の学習意欲や社会への関心を高める効果が大きいと思う。今後も支援の継続を望む。
- ICT 教育の充実
ICT 教育は万能ではない。幼児、児童生徒に対して本当に思考力や集中力を高めることができるのか。一画面上で資料を幾つか並べて俯瞰しながら思考することができない。タブレットの画面にタッチペンで書く感覚も実際に紙に書く感覚と違うなど。何より無機質な画面に長時間向き合うことによる感性や感覚の劣化を感じる。指導効果を高めるための道具や利用するという視点で今後も活用方法の評価反省を継続して実施することを望む。

- 幼児教育・保育の充実
保護者と連携した教育と保育は重要。特に幼児個々の特性や家庭環境に応じた対応が望まれる。日々評価と反省をし、質の向上に努めてほしい。
- 小中学校熱中症対策
近年の温暖化により、当町でも真夏の暑さは昔の比ではなくなっている。教育の質や、指導を適切に行うためにエアコンを必要な箇所に設置したことは大変評価される。今後も、定期的なメンテナンスを実施し使用を続けたい。

【社会教育】

- 暑寒大学・こども園交流会は年一回の事業だが、交流会当日のみならず、それに向けての準備、終了後の評価反省など連続した学びと体験の場となっている。継続を望む。
- 情報誌「親子の時間」継続した発行によって、一定の効果があると思う。今後も継続を望む。ただ、誌面の工夫は1年毎に必要と思う。
- 増毛キッズ体験隊は家庭の体験経験の格差、子供たちの家庭での過ごし方の変化など、現代の子供世代が育つ環境の課題解決の一つとなっている。
- 内容に保護者とともに行う事業があるのは大変良いと思う。今後も継続を望む。
- ごだらっぺ王国祭はコロナ禍後、運営主体が変わったが計画的に実施されている。また、多くの関係の方々に関わることで、幼児と児童のための事業ではなく様々な交流が図られている。今後も継続を望む。
- 増毛町文化祭は展示、発表とも参加者が年々少なくなり寂しくなっている。両部門に学校やこども園と連携した取り組みを入れるなど、全世代参加型に変えていく必要があるのではないか。
- 重要文化財旧商家丸一本間家は町内外の方々に、文化財としての価値を発信するためにイベントを企画実施しており大変良いと思う。ミニ縁日などのように、歩道（公的機関の許可がいるが）から屋内につながるような仕掛けも、効果があるのではないか。
- 史跡巡りツアーは改めて町内の史跡を巡る機会はなかなかないため、テーマを決めて毎年実施するなどの工夫がこれから必要となる。例えば、海がテーマ、あるいは山がテーマ、そして産業（漁業、農業、商業）や歴史、建築物などが考えられ、今後も継続を望む。
- 第14回健康づくりウォークラリーは、町民に定着した事業で安定した参加者が続いている。今後も継続を望む。
- ましけラン2024は町民の健康維持、スポーツ活動の一環として長年町民に認知され、一定の事業効果を果たしてきた。今後も継続を望む。
- 子ども水泳教室はスポーツの一つとしての水泳の魅力を、子どもの時から味わい体験できる場となっている。今後も継続を望む。
- 社会教育だよりの発行によって、町民への文化活動の情報が広められている。一層の紙面

の工夫改善を加えながら継続を望む。

- 創作の館は、現在陶芸サークルのみの利用となっている。他の一般町民への解放はできないだろうか。解放の回数や内容など検討されたい。
- 屋内グラウンドは他町村には無い運動施設である。ただ、近年利用者が次第に減少しているので、町外の方にも利用させるなど施設の活用を図っては如何か。
- パークゴルフ場は利活用がなされており、一定の活動実績を残している。これらも今後一層の活用充実を望む。
- その他の部分では、近年熊の出没によって散歩、ウォーキングができないことが起きている。施設利用とは関わりはないが、一定の情報提供や対策が講じられるなどの対応をお願いしたい。